

河川環境改善活動による新しい河川管理

山口県錦川総合開発事務所 山本 一夫

1. はじめに

今後の河川の管理においては、単に草刈り・清掃にとどまらず地域の多様なニーズ、例えば豊かな河川環境を利用した環境教育の場や、人々の憩いの場・コミュニティの場等の形成に答えていく必要がある。しかし、これらのニーズに対して河川管理者が主体的に対応していくには限界がある。そのため、一つの試みとして地域住民に積極的に川を開放し、地域住民が河川環境改善活動(河川監視、河川観察、植樹、河川清掃等)を通して河川の管理に参加していくことが必要となってくる。

地域住民が河川環境改善活動を通して河川管理の一部を担っている例として、ドイツの「里親制度」やイギリスの「マージー川流域キャンペーン」があり、それらの調査のため1999年1月にドイツのBaden-Wuerttemberg州当局とイギリスManchesterの民間の活動団体を訪問する機会を得たのでここに紹介する。

また、日本の比較的小規模な河川にこれらの制度等を適用していくため、いくつかの提案をする。

2. ドイツ里親制度の概要

ドイツの里親制度は、一般市民が河川環境改善活動に参加することにより「地域に親しまれる川にしよう」、「河川環境にもっと関心を持とう」という意識を持てるように1980年代に始まった。対象河川は市町村の管理河川で、管理区間の1割程度をこの制度で管理している。里親は環境団体や学校等になっており、環境団体としては、ドイツ最大の環境団体であるドイツ自然保護連合(BUND)等があり、市民に里親になることを呼びかけている。また、学校ではこれらの活動を環境教育の教材として利用しており、子供達も学級活動を通して河川環境に大きな関心を持つようになっている。

里親が果たす役割

1993年にBaden-Wuerttemberg州のStuttgart市による「小川の里親制度」の小冊子には、里親が果たす役割について以下のように述べている。

水域は、森林、耕作地及び宅地の生活圏を結びととも、極めて豊富な動物種や植物種が生息し、生物学的な自浄能力が高い。動植物は、人間が自然状態、あるいは

は近自然状態の水域を維持し拡大する場合にのみ生き残ることが出来る。里親はこの水域の維持及び近自然的な開発に貢献し、自然環境の水域のために尽くすことが出来る。

里親は、大人だけでなく青少年にも環境活動への関心を起こさせる。

里親の経験や、活動への参加は環境への意識向上に役立つ。

里親の活動内容

里親の主要な活動は、各河川的环境等によって異なるが、概ね以下のとおりとなっている。

川の監視・観察

岸への植樹

川や岸の清掃

川沿いの土地は一般的には私有地であるため、土地所有者との事前調整が必要であるが、土地所有者は、岸への植樹、岸の植物群への世話を認めている。また、漁業に影響がある箇所については、漁業関係者に事前に通告することになっている。

これらの活動に伴うトラブルに対応するため、「河川工事の説明書」、「河川工事処理の手引き」等が公表されている。

里親は必要な専門知識を環境省の付属機関が行う研修セミナーなどで取得出来る他、河川管理及び自然保護の所管官庁に助言・支援を求めることが出来る。さらに、自治体を技術指導する制度として「Leherer」と呼ばれる河川の専門アドバイザーを配置しており、Baden-Wuerttemberg州には46人いる。レーターは研修機関で研修を受け資格を取得するが、組織を離れ個人として参加している。

契約書の概要

里親の請負契約については文書で交わされ、契約期間は一般に5年程度以上となっている。自治体と里親が結ぶ契約書の概要は以下のとおりとなっている。



川の観察

里親が世話をする区間(河川の上流から下流まで)

活動内容(河川の監視・観察等)

私有地での対応
行為の制限

・木、藪、ヨシ等の茂みを掘り起こしたり、切り抜かないこと。

・魚の禁漁期、両生類の休眠期間は避けること。

・化学薬品や同等のものは使用しないこと。



岸の樹木の手入れ

3. マージー川流域キャンペーン

マージー川は、イギリス南西部を流れる流域面積4680km²の大河川であるが、産業革命による産業中心の社会情勢の中でごみや廃棄物の捨て場となっていた。そのため、汚染された河川環境を改善しようと始められたのがマージー川流域キャンペーンである。

このキャンペーンは、1985年に始まり2010年までの25年間に、40億ポンドの予算で以下の目的を達成しようとする大規模な河川環境改善活動である。

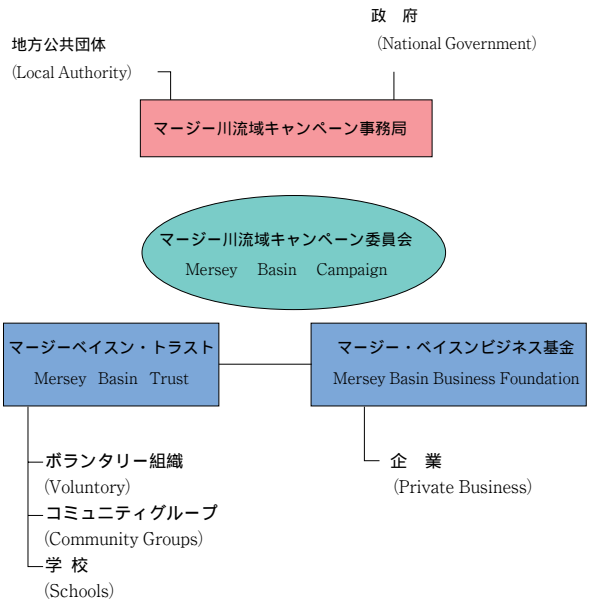
流域のすべての河川、水路・運河を魚が棲める程十分な水質に改善する。

地域社会に愛される魅力的な水辺環境を創出する。地域住民が身近な川や水辺環境の価値をしっかりと認識し、大切にしようとする意識を高める。

今回訪問した民間団体のマージーベイスン・トラストは、1987年に地域の人々が環境改善活動に参加出来ることを目的に設立され、水辺観察(Water Detectives)、水辺の保全(Stream Care)等のプロジェクトを通して、地元のボランティア団体やコミュニティ、学校等を支援している。

環境教育の支援

トラストの活動の中で特筆されるのは、5～16歳までの子供達のために環境教育を支援していることである。イギリスではナショナルカリキュラムがあり、地理・科学において川に関するものが多いので、トラストにおい



マージー川流域キャンペーン推進機構

でもその流れを受けて川を中心としたカリキュラムとなっている。これらの活動は、事前に資料等を作成する際に地域の先生と十分話し合いながら行っているため、大変うまくいっている。具体的な活動としては以下のとおりである。

各地域の教育グループと連携し、地域に合った専用の教育プログラムを作成したり、年次会で具体的な活動について先生と話し合いを行っている。

先生の仕事の手助けとなるようなメニューを選定し、先生が参加しやすいようにしている。

川まで行けない身体障害者への支援として、教室での環境教育を行っている。

学校が川で授業を行う際には、器具・機械の貸し出しや、交通費の支給を行っている。

次に各プロジェクトの具体的な成果を紹介する。

水辺観察(Water Detectives)

「水辺観察」は1994年からスタートしており、1998年のシェルUKのスポンサー参加により活動が活発になり、学校の先生方に河川や環境面におけるいろんな興味ある内容を示し、授業の手助けを行っている。特に、「水辺観察」のガイドブックは、河川学習プランニングのアイデア、観察活動のアドバイス、学級活動のフォローアップに役立っている。支援を受けた学校は1997年～98年の1

年間に187校に及んでいる。

また、「水辺観察の基金制度」が1998年の9月にスタートし、16の学校が河川観察の費用や交通費として助成金を受け取っている。

下の写真は、幼児学校の子供達による小川の観察・小さな生き物たちの調査状況である。子供達は川幅や水深を測ったり、小さな生き物が小川のどんなところに、どんな状況で棲んでいるか、トレイに採って詳しく観察している。



水辺観察を行う子供達

水辺の保全(Stream Care)

「水辺の保全」は、マージー川流域の川や水路の美化に取り組んでいるボランティア団体を支援している。各ボランティア団体が支流単位で水辺環境の改善に積極的に

取り組んでいる。

また、本プロジェクトは河川清掃や河川の自然を多様化に取り組むだけでなく以下の活動も行っている。

野草や木を植える。

散歩道を造る。

リーフレットやサインをデザインする。

その他の機関の活動

.Wigan市における公募による環境改善活動

Wigan市では、公募により市民から環境改善活動を募り、選定された活動には、市と環境団体の出資により最高1000ポンドの助成金が支給されており、河川関係はそのうち4分の1を占める。

以前は市議会がこういった環境改善活動を決めても、市民は全く関心を示さなかったが、本プロジェクトにより、自分達にも何か環境にいい影響を与えることが出来るという気持ちが芽生え、このことにより地域のコミュニティに環境改善活動が根付いた。市のPR活動は、ラジオ・新聞等のメディアだけでなく環境会議、教育セミナー等にも及んでいる。

また、これらの支援プログラムとしてWiganプログラムがある。このプログラムは、P.P.Cプログラム(The People & Places Community Programme)と呼ばれ、地域の環境改善活動を助けるため、地域のコミュニティのネットワーク化を図るものである。本プログラムでは、各活動団体に多くの異なった環境問題に関するアドバイスやガイダンスを与えたり支援をしている。

Leigh環境教育センター

地域の子供達の環境教育に大きな成果を挙げている機関にLeigh環境教育センターがある。

当センターは水処理会社であるノースウエストウオーターがスポンサーとなって出来たもので、学校の先生が派遣されて子供達の指導に当たっており、ナショナルプログラムに基づいたプログラムは子供達に人気があり、大きな成果を挙げている。子供達は、環境教育ソフトの入ったパソコンや河川の水質検査を行う器具等を自由に使用出来る。

4. 新しい河川管理の提案

今回の調査により、日本の比較的小規模な河川の維持



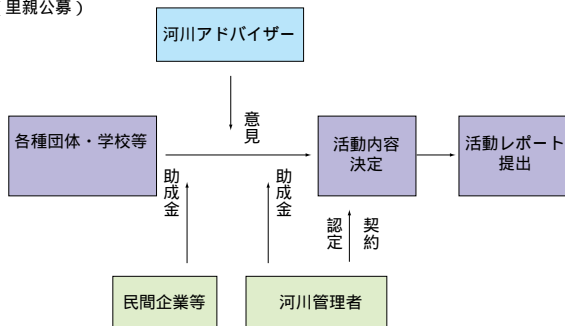
Leigh環境教育センター

管理においては、ドイツで行われている里親制度の導入が大変有効と考えられるので、いくつかの提案をしたい。

里親制度の創設

里親制度の推進機構としては以下のフローが考えられるが、里親の熟度、地域のニーズに合った対応が必要となる。河川管理者の役割は、治水を中心としたものになるが、河川全般に対する責任は大きくは変化しない。

(里親公募)



支援制度

本制度の支援制度として、里親団体や自治体を専門的な立場で指導を行う河川アドバイザー制度(仮称)の創設が必要である。アドバイザーは、個人の資格で参

加し専門研修等で資格を取得する。

これらの活動を新聞・テレビ等のマスメディア等により積極的にPRし、活動を地域社会に根付いたものにする。

活動に資金援助を行う民間企業については、パンフレット等にロゴマークを載せたり、マスメディアに紹介したりして企業のイメージアップに努めることにより企業の参加を促す

各種団体との交流をネットワーク化し、効果的に活動レベルのアップを図る。

河川管理者は、河川全般の専門知識や他地域の情報等を提供し側面的に支援する。

5. おわりに

今後河川は治水・利水だけでなく、生態系を中心とした環境学習の場、ボランティア活動の場等さまざまな社会的なニーズに答えていく行く必要がある。そのために、地域住民がどういったかたちで河川と関わっていくか、ドイツやイギリスの事例にはいくつかのヒントがあるように感じられた。

素晴らしいふるさとの川を守り育て、私たちの子孫に引き継いでいくことは私たちに課せられた責任である。河川に関わる者として、今後も微力ながらトライしていきたい。

最後に、本調査にご協力頂いた関係者の方々、またドイツの訪問先を紹介して頂いたリバーフロント整備センターの小池前所長(現 日本建設コンサルタント(株)技師長) 和田主事に深くお礼申し上げます。

参考文献

- 1) Aktiver Umweltschutz Bachpatenschaften Stuttgart 1993
- 2) 流域からのまちづくりマージー川流域キャンペーンと鶴見川の流域活動 大澤浩一 調査季報 横浜市
- 3) Annual Review 1997 / 1998 Mersey Basin Trust
- 4) Water Detectives Mersey Basin Trust
- 5) Stream Care Mersey Basin Trust
- 6) Wigan Mbc's Community Programme Wigan